

仙台市介護保険事業計画 策定のための実態調査報告書

【要介護者等調査】

令和2年3月

仙台市健康福祉局保険高齢部介護保険課

第1章 調査の実施概要

1 調査目的.....	3
2 調査設計.....	3
3 調査の回答状況.....	4
4 報告書を読む際の留意点.....	4

第2章 分析結果の概要

1 調査対象者の属性.....	7
2 在宅で暮らしていくために必要なことについて.....	10
3 介護保険について.....	11
4 介護保険料について.....	12
5 在宅サービスの利用状況と満足度について.....	15
6 在宅サービスの利用限度額について.....	19
7 在宅サービスの今後の利用意向について.....	20
8 在宅サービスを利用していない方について.....	21
9 介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について.....	22
10 安否確認について.....	25
11 今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について.....	27
12 施設入所者の状況について.....	28
13 介護サービスに不満があった場合の対応について.....	30
14 介護サービスの利用者負担について.....	30
15 仙台市への意見・要望について（自由記述）.....	32
16 介護者について.....	32

第3章 設問項目ごとの集計結果

1 調査対象者の属性.....	43
（1）調査票の記入者.....	43
（2）性別.....	43
（3）年齢.....	44

(4) 世帯の状況.....	44
(5) 世帯全員の人数.....	45
(6) 現在居住している地域.....	46
(7) 要介護度.....	47
(8) 傷病の状況【複数回答】.....	48
(9) 傷病に対する医療処置の状況【複数回答】.....	49
(10) 本人の年間総収入.....	50
(11) 世帯の年間総収入.....	51
(12) 現在の生活場所.....	52
2 在宅で暮らしていけるために必要なことについて.....	53
3 介護保険について.....	54
(1) 更新認定の有効期間の適当な長さ.....	54
(2) 介護保険に関連した知りたい情報【複数回答】.....	55
(3) 充実してほしい市提供の情報媒体【複数回答】.....	56
4 介護保険料について.....	57
(1) 保険料段階.....	57
(2) 保険料の負担感.....	58
(3) ひと月あたりの妥当と考える保険料額.....	58
(4) 保険料と介護サービスのあり方.....	59
(5) 市独自の介護サービスと保険料のあり方.....	60
5 在宅サービスの利用状況と満足度について.....	61
(1) 現在利用している在宅サービスの種類【複数回答】.....	61
(2) 現在利用している在宅サービスの利用頻度.....	62
(3) ケアマネジャー（居宅介護支援事業者・地域包括支援センター） の選択理由【複数回答】.....	64
(4) ケアマネジャーや地域包括支援センターに対する満足度.....	65
(5) ケアマネジャーや地域包括支援センターに対して不満な点 【複数回答】.....	66
(6) 現在利用している在宅サービスの選択理由【複数回答】.....	67
(7) 在宅サービスの質や内容に対する満足度.....	68
(8) 在宅サービスの質や内容に対して不満な点【複数回答】.....	69
(9) 在宅サービスの量に対する満足度.....	70
(10) 在宅サービスの量に対して不満な点【複数回答】.....	71

6	在宅サービスの利用限度額について	72
	(1) 利用限度額に対する在宅サービスの利用量	72
	(2) 利用限度額まで在宅サービスを利用していない理由【複数回答】	73
7	在宅サービスの今後の利用意向について	74
	(1) 今後利用したい、増やしたいと思う在宅サービス【複数回答】	74
8	在宅サービスを利用していない方について	75
	(1) 在宅サービスを利用していない理由【複数回答】	75
	(2) 今後の在宅サービスの利用予定	76
	(3) 今後利用したいと思う在宅サービス【複数回答】	77
9	介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について	78
	(1) 高齢者福祉サービスの利用状況【複数回答】	78
	(2) 高齢者福祉サービスの今後の利用意向【複数回答】	79
	(3) 地域、NPOやボランティアによるサービスの利用状況【複数回答】	80
	(4) 地域、NPOやボランティアによるサービスを利用していない理由【複数回答】	81
	(5) 地域、NPOやボランティアによる今後利用したい（現在利用していて、今後も引き続き利用したい場合を含む）と思うサービス【複数回答】	82
	(6) 地域、NPOやボランティアによるサービスを今後利用したくない理由【複数回答】	82
10	安否確認について	83
	(1) 安否確認の意向	83
	(2) 安否確認の希望回数	83
	(3) 安否確認を必要とする状況【複数回答】	84
	(4) 安否確認をしてもらいたい相手方【複数回答】	85
11	今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について	86
	(1) 今後介護を受けたい場所	86
	(2) 施設への入所申し込み状況【複数回答】	87
12	施設入所者の状況について	90
	(1) 施設入所前の生活場所	90
	(2) 施設への入所理由【複数回答】	91
	(3) 施設サービスの満足度	92

(4) 施設サービスの不満な点【複数回答】	93
(5) 今後介護を受けたい場所	94
(6) 自宅や他施設での介護を希望する理由【複数回答】	95
(7) 引き続き現在の施設に入所を希望する理由【複数回答】	96
13 介護サービスに不満があった場合の対応について	97
(1) 介護サービスに不満があった場合の相談先【複数回答】	97
14 介護サービスの利用者負担について	98
(1) 1か月の平均的な利用者負担額	98
(2) 利用者負担の負担感	99
(3) 利用者負担が3割になった以降における利用量の変化とその理由	100
15 仙台市への意見・要望について（自由記述）	101
16 介護者について	102
(1) 介護者の有無	102
(2) 介護者の性別	102
(3) 介護者の続柄	103
(4) 介護者の年齢	103
(5) 介護者の健康状態	104
(6) 介護者の要介護等認定の状況	104
(7) 介護者の他の介護の有無	105
(8) 週あたりの介護日数	106
(9) 1日平均の介護時間	106
(10) 介護者の住まい	107
(11) 介護している内容【複数回答】	108
(12) 介護の期間	109
(13) 介護者以外に介護を手伝ってくれる人数	109
(14) 介護サービスを利用してよくなった点【複数回答】	110
(15) 介護するうえで困った点・不満な点【複数回答】	111
(16) 介護を継続するにあたっての不安【複数回答】	112
(17) 介護についての相談者【複数回答】	113
(18) 介護者の現在の勤務形態	114
(19) 介護するための働き方の調整【複数回答】	115
(20) 仕事と介護の両立に向けた勤務先の支援のあり方【複数回答】	116
(21) 今後の仕事と介護の両立に対する意向	117

(22) 過去1年間、介護のために家族や親戚が離職の有無【複数回答】	118
(23) 介護のために家族や親戚が離職や転職した理由【複数回答】	119
(24) 介護のために家族や親戚が離職していない理由【複数回答】	120

第4章 調査結果の分析

1 調査対象者の属性	123
(1) 性別・年齢	123
(2) 世帯の状況	123
(3) 世帯全員の人数（その他の世帯）	126
(4) 要介護度	127
(5) 傷病の状況 【複数回答】	129
(6) 傷病に対する医療処置の状況 【複数回答】	133
(7) 本人の年間総収入	136
(8) 世帯の年間総収入	138
(9) 現在の生活場所	140
2 在宅で暮らしていけるために必要なことについて	142
3 介護保険について	144
(1) 更新認定の有効期間の適当な長さ	144
(2) 介護保険に関連した知りたい情報 【複数回答】	145
(3) 充実してほしい市提供の情報媒体 【複数回答】	146
4 介護保険料について	147
(1) 保険料段階	147
(2) 保険料の負担感	149
(3) ひと月あたりの妥当と考える保険料額	155
(4) 保険料と介護サービスのあり方	161
(5) 市独自の介護サービスと保険料のあり方	169
5 在宅サービスの利用状況と満足度について	175
(1) 現在利用している在宅サービスの種類 【複数回答】	175
(2) 在宅サービスの利用内容（利用の有無）	184
(3) ケアマネジャー（居宅介護支援事業者・地域包括支援センター） の選択理由 【複数回答】	189
(4) ケアマネジャーや地域包括支援センターに対する満足度	192

(5) 現在利用している在宅サービスの選択理由 【複数回答】 ...	197
(6) 在宅サービスの質や内容に対する満足度.....	199
(7) 在宅サービスの量に対する満足度	204
6 在宅サービスの利用限度額について	210
(1) 利用限度額に対する在宅サービスの利用量.....	210
(2)利用限度額まで在宅サービスを利用していない理由【複数回答】	218
7 在宅サービスの今後の利用意向について.....	221
(1) 今後利用したい、増やしたいと思う在宅サービス 【複数回答】	221
8 在宅サービスを利用していない方について.....	229
(1) 在宅サービスを利用していない理由 【複数回答】	229
(2) 今後の在宅サービスの利用予定	231
9 介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について.....	232
(1) 高齢者福祉サービスの利用状況 【複数回答】	232
(2) 高齢者福祉サービスの今後の利用意向 【複数回答】	237
(3) 地域、NPOやボランティアによる サービスの利用状況【複数回答】	242
(4) 地域、NPOやボランティアによるサービスを 利用していない理由 【複数回答】	247
10 安否確認について.....	251
(1) 安否確認の意向	251
(2) 安否確認の希望回数.....	257
(3) 安否確認を必要とする状況 【複数回答】	261
(4) 安否確認をしてもらいたい相手方 【複数回答】	265
11 今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について	269
(1) 今後介護を受けたい場所.....	269
(2) 施設への入所申し込み状況 【複数回答】	275
12 施設入所者の状況について	278
(1) 施設入所前の生活場所.....	278
(2) 施設への入所理由 【複数回答】	281
(3) 施設サービスの満足度.....	283
(4) 今後介護を受けたい場所.....	285
(5) 引き続き現在の施設に入所を希望する理由 【複数回答】 ...	288

13	介護サービスに不満があった場合の対応について.....	289
	(1) 介護サービスに不満があった場合の相談先 【複数回答】 ..	289
14	介護サービスの利用者負担について.....	292
	(1) 1か月の平均的な利用者負担額.....	292
	(2) 利用者負担の負担感.....	297
	(3) 利用者負担が3割になった以降における利用量の変化とその理由	302
15	仙台市への意見・要望について（自由記述）	304
16	介護者について.....	311
	(1) 介護者の有無.....	311
	(2) 介護者の性別.....	313
	(3) 介護者の続柄.....	315
	(4) 介護者の年齢.....	316
	(5) 介護者の健康状態.....	317
	(6) 介護者の要介護等認定の状況.....	318
	(7) 週あたりの介護日数.....	319
	(8) 1日平均の介護時間.....	322
	(9) 介護者の住まい.....	325
	(10) 介護している内容 【複数回答】	328
	(11) 介護の期間.....	330
	(12) 介護者以外に介護を手伝ってくれる人数.....	331
	(13) 介護サービスを利用してよくなった点 【複数回答】	333
	(14) 介護をするうえで困った点・不満な点 【複数回答】	335
	(15) 介護を継続するにあたっての不安 【複数回答】	337
	(16) 介護についての相談者 【複数回答】	339
	(17) 介護者の現在の勤務形態.....	340
	(18) 介護するための働き方の調整 【複数回答】	343
	(19) 仕事と介護の両立に向けた勤務先の支援のあり方 【複数回答】	346
	(20) 今後の仕事と介護の両立に対する意向.....	348
	(21) 過去1年間の介護による家族や親せきの離職の有無 【複数回答】	350
	(22) 介護のために家族や親せきが離職や転職した理由 【複数回答】	352
	(23) 介護のために家族や親せきが離職していない理由 【複数回答】	353

資料編（調査票）

（1）全体版.....	357
（2）施設版.....	393

第1章

調査の実施概要 (要介護者等調査)

第1章 調査の実施概要

1 調査目的

仙台市介護保険事業計画策定のための実態調査（要介護者等調査）は、第8期仙台市介護保険事業計画（計画期間：令和3年度～令和5年度）の策定にあたり、保険給付の将来推計の基礎となる介護サービスの利用状況・利用意向を把握するとともに、負担とサービスのあり方や保険外サービスの利用状況など、介護保険事業を含む本市高齢者施策に関する要介護者等の現状を把握することを目的として実施しました。

2 調査設計

要介護者等に対する調査は、全体版の調査票と回答する設問のみを抜粋した施設入所者用調査票の2種類を用意しました。

なお、施設入所者が全体版の調査票で回答した場合は、施設入所者の調査データとして取扱い集計等の電算処理を行いました。

■調査概要

調査対象者	令和元年9月末の時点において、仙台市介護保険被保険者資格を有しており、かつ、要介護認定等を受けている約46,600人から無作為抽出した方	5,000人
調査方法	調査対象者に調査票を郵送し、記入後の調査票を同封の返信用封筒にて返送する郵送方式にて実施	
調査基準日	令和元年11月1日	
調査期間	令和元年10月31日～令和元年11月20日	

■調査票「要介護者等（全体）」

調査票の設問内容と項目数	1 調査対象者の属性	問1～10
	2 在宅で暮らしていくために必要なことについて	問11
	3 介護保険について	問12～14
	4 介護保険料について	問15～19
	5 在宅サービスの利用状況と満足度について	問20～26
	6 在宅サービスの利用限度額について	問27
	7 在宅サービスの今後の利用意向について	問28
	8 在宅サービスを利用していない方について	問29～30
	9 介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について	問31～32
	10 安否確認について	問33
	11 今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について	問34～35
	12 施設入所者の状況について	問36～38
	13 介護サービスに不満があった場合の対応について	問39
	14 介護サービスの利用者負担について	問40～42
	15 仙台市への意見・要望について（自由記述）	問43
	16 介護者について	問44～56

※調査票は資料編に掲載しています。

■調査票「要介護者等（施設）」

調査票の設問 内容と項目数	1 調査対象者の属性	問 1～10
	2 在宅で暮らしていくために必要なことについて	問 11
	3 仙台市の介護保険について	問 12～14
	4 介護保険料について	問 15～19
	5 施設入居者の状況について	問 20～22
	6 介護サービスに不満があった場合の対応について	問 23
	7 介護サービスの利用者負担について	問 24～26
	8 仙台市への意見・要望について（自由記述）	問 27

※調査票は資料編に掲載しています。

3 調査の回答状況

調査票区分	配布数	有効回収数	有効回収率	集計対象数※
介護保険事業計画策定のための実態調査	5,000人	2,725人	54.5%	2,622人
介護保険事業計画策定のための実態調査（在宅者向け）	4,800人	2,601人	54.2%	2,520人
介護保険事業計画策定のための実態調査（施設等入居者向け）	200人	124人	62.0%	102人

※有効回収数から、「死亡」や「障害等により回答できない」等を除いたもの。

4 報告書を読む際の留意点

- ① 調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことであり、質問によって異なる場合があります。
- ② 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100%にならないことがあります。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、各質問の回答数（n）を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える場合があります。
- ③ 集計表や図では、選択肢の語句を一部簡略化してあらわしている場合があります。

第2章

分析結果の概要 (要介護者等調査)

第2章 分析結果の概要

1 調査対象者の属性

■調査票の記入者

回答者は「本人」（40.1%）が最も多く、次いで、「子」（28.5%）、「配偶者（夫または妻）」（14.9%）となっています。（P.43）

■性別

本人の性別は、「男性」（31.5%）、「女性」（64.8%）となっています。

性別にみると、「65～74歳」は『男性』で16.6%、『女性』で9.4%と男性が多くなっています。一方、「75歳以上」は『男性』で80.3%、『女性』で88.5%と、『女性』が多くなっています。（P.43, P.123）

■年齢

本人の年齢は、「85～89歳」（27.1%）が最も多く、次いで、「90歳以上」（23.3%）、「80～84歳」（20.8%）となっており、後期高齢者（75歳以上）が83.4%を占めています。（P.44）

■世帯の状況

世帯の状況は、「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）」（34.1%）が最も多く、次いで、「その他の世帯」（30.1%）となっています。

性別にみると、『男性』では「夫婦のみ（ともに65歳以上）」が多くなっている一方、『女性』では「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）」が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）」が多くなっており、『65～69歳』、『80歳以上』で30%を超えています。また、『70歳～79歳』では「夫婦のみ（ともに65歳以上）」が30%を超えて、他の年齢層に比べて多くなっています。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるにしたがって「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）」の割合が多くなっています。（P.44, P.123～P.125）

■世帯全員の人数

世帯の状況で「上記以外で全員が65歳以上の世帯（「ひとり暮らし」、「夫婦のみ」以外で全員が65歳以上の世帯。）」と回答した方の世帯人数は、「2人」（46.5%）が最も多く、次いで「3人」（39.6%）、「4人」（5.0%）となっています。

世帯の状況で「その他の世帯」と回答した方の世帯人数は、「3人」（37.3%）が最も多く、次いで、「2人」（21.6%）、「4人」（19.8%）となっています。

年齢別にみると、『80歳以上』では「3人」が多くなっています。（P.45, P.126）

■現在居住している地域

現在の居住地域（中学校区）は、太白区の「長町中」（3.3%）が最も多く、次いで、青葉区の「五橋中」、宮城野区の「宮城野中」（ともに2.7%）となっています。

また、5区別の構成比は、「青葉区」27.2%、「宮城野区」15.7%、「若林区」9.8%、「太白区」21.6%、「泉区」20.8%となっています。（P.46～P.47）

■要介護度

要介護・要支援度は、「要支援1」（25.6%）が最も多く、次いで、「要介護1」（18.6%）、「要介護2」（13.3%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「要介護1」が1.2ポイント、「要支援2」「要介護5」が0.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『75～84歳』で「要支援1」と「要支援2」の人が多くなっている一方、『90歳以上』では、「要介護4」と「要介護5」の人が多くなっています。

在宅サービスの利用内容別にみると、『通所リハビリテーション（デイケア）』、『訪問介護（ホームヘルプサービス）』は「要支援1」が他の利用内容と比較して多くなっています。（P.47, P.127～P.128）

■傷病の状況【複数回答】

傷病の状況は、「高血圧症」（42.2%）が最も多く、次いで、「認知症（アルツハイマー病など）」（21.9%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症など）」（19.9%）、「視覚異常・目の病気（白内障など）」（17.8%）、となっています。

性別では、『男性』では「脳卒中（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など）」「糖尿病」が多くなっている一方、『女性』では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症など）」が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「高血圧症」、「認知症（アルツハイマー病など）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症など）」、「聴覚異常・耳の病気（難聴など）」が多くなっている一方、「脳卒中（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など）」、「糖尿病」が少なくなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「認知症（アルツハイマー病など）」、「脳卒中（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など）」が多くなっている一方、「高血圧症」、「視覚異常・目の病気（白内障など）」が少なくなっています。（P.48, P.129～P.132）

■傷病に対する医療処置の状況【複数回答】

傷病に対する医療処置の状況は、「定期的に通院している」（73.6%）が最も多く、次いで、「定期的に医師の往診（訪問診療）を受けている（施設の嘱託医の診療を含む）」（19.3%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「定期的に医師の往診（訪問診療）を受けている（施設の嘱託医の診療含む）」が0.9ポイント、定期的に看護師による医療（訪問看護）を受けている」が0.7ポイント、「選択肢以外の医療を受けている」が0.5ポイント、「必要に応じて医師の往診（訪問診療）を受けている」が0.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「定期的に医師の往診（訪問診療）を受けている（施設の嘱託医の診療を含む）」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「定期的に医師の往診（訪問診療）を受けている」が多くなる一方で、「定期的に通院している」が少なくなっています。（P.49, P.133～P.135）

■本人の年間総収入

本人の年間総収入額は、「100万円～200万円未満」（30.7%）が最も多く、次いで、「50万円～100万円未満」（19.8%）、「200万円～300万円未満」（18.9%）、「50万円未満」（10.3%）となっています。

性別では、『男性』は「200～300万円未満」が多く、『女性』は「100～200万円未満」が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「200万円～300万円未満」、「300万円～500万円未満」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』、『上記以外で全員が65歳以上の世帯』で「100万円～200万円未満」が多くなっています。（P.50, P.136～P.137）

■世帯の年間総収入

本人も含めた世帯の年間総収入額は、「200万円～300万円未満」（21.7%）が最も多く、次いで、「300万円～500万円未満」（21.4%）、「100万円～200万円未満」（17.4%）となっています。

年齢別にみると、『70～84歳』では「200～300万円未満」が多く、『85歳以上』では「300万円～500万円未満」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』では「100～200万円未満」が多くなっている一方、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』、『上記以外で全員が65歳以上の世帯』では「300～500万円未満」が多くなっています。（P.51, P.138～P.139）

■現在の生活場所

現在の生活場所は、「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」（62.8%）が最も多くなっています。

年齢別にみると、各項目で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が多くなっている一方、『65～74歳』では「賃貸住宅（市営住宅等を含む）」が20%を超えて、他の年齢層に比べて多くなっています。

要介護別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって、「特別養護老人ホーム（長期入所）」、「老人保健施設」が多くなる一方、「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」、「賃貸住宅（市営住宅等を含む）」が少なくなっています。（P.52, P.140～P.141）

2 在宅で暮らしていくために必要なことについて

在宅で暮らしていくために必要なことは、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」（54.9%）が最も多く、次いで、「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」（44.0%）、「訪問介護系サービスの充実」（41.2%）となっています。

年齢別にみると、各項目で「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」、「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」、「訪問介護系サービスの充実」が多くなっています。（P.53, P.142～P.143）

3 介護保険について

■更新認定の有効期間の適当な長さ

更新認定の有効期間の適当な長さは、「2年間」（33.2%）が最も多く、次いで、「1年間」（26.4%）、「3年以上」（14.9%）の順となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「3年以上」は2.9ポイント高くなっています。

要介護度別にみると、『要介護1』では「1年間」が多く、他の項目では「2年間」が少なくなっています。（P.54, P.144）

■介護保険に関連した知りたい情報【複数回答】

介護保険に関連して知りたいと思う情報は、「介護保険で利用できるサービスや費用など介護保険制度の仕組みについての情報」（60.5%）が最も多く、次いで、「介護保険事業者に対する評価や評判等の情報」（32.4%）、「市内や近隣の介護保険事業者の案内」（25.9%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「介護保険で利用できるサービスや費用など介護保険制度の仕組みについての情報」が12.5ポイント、「介護保険の手続き等の案内」が8.1ポイント高くなっています。

要介護度別にみると、概ね各項目で「介護保険で利用できるサービスや費用など介護保険制度の仕組みについての情報」、「介護保険事業者に対する評価や評判等の情報」が多くなっています。（P.55, P.145）

■充実してほしい市提供の情報媒体【複数回答】

介護保険に関する情報媒体として充実してほしいものは、「市政だより」（44.9%）が最も多く、次いで、『介護保険料のお知らせ』などに同封されるチラシ」（42.4%）、「パンフレット」（35.2%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、『介護保険料のお知らせ』などに同封されるチラシ」が8.7ポイント、「パンフレット」が6.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、各項目で「市政だより」、「介護保険料のお知らせ」などに同封されるチラシ」が多くなっています。（P.56, P.146）

4 介護保険料について

■保険料段階

保険料の所得段階は、「第2段階」（12.3%）が最も多く、次いで、「第5段階」（9.2%）、「第1段階」（7.6%）となっています。

性別では、「第2段階」、「第5段階」では『女性』が多くなっている一方、「第8段階」、「第9段階」は『男性』が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「第1段階」が少なくなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』、『上記以外で全員が65歳以上の世帯』では「第2段階」、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』では「第5段階」が多くなっています。（P.57, P.147～P.148）

■保険料の負担感

保険料の負担感は、「なんとか支払える額である」（56.8%）が最も多く、「無理なく支払える額である」（13.6%）を合わせると、70.4%が『支払える額』と考えています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「なんとか支払える額である」が多くなっている一方、「支払いが困難な額である」が少なくなっています。

本人の年間総収入別では、年収が高くなるにしたがって、「支払いが困難な額である」が少なくなっています。

世帯の年間総収入別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって「無理なく支払える額である」が多くなっています。

施設サービスの満足度別にみると、『満足』では「無理なく支払える額である」が多くなっています。（P.58, P.149～P.154）

■ひと月あたりの妥当と考える保険料額

ひと月あたりの妥当と考える保険料額は、「2,000円程度」（21.4%）が最も多く、次いで、「3,000円程度」（15.5%）、「5,000円程度」（12.5%）となっています。また、「わからない」は19.5%となっています。

性別では、『女性』は「2,000円程度」、『男性』は「5,000円程度」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、概ね各項目で「2,000円程度」が多くなっており、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』では「5,000円程度」が多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、『200万円未満』では、「2,000円程度」が多くなっている一方、『200万円以上』では「5,000円程度」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、『300万円未満』では「2,000円程度」が多くなっている一方、『300万円以上』では「5,000円程度」が多くなっています。

保険料段階別にみると、『第9段階』までは、概ね保険料段階が高くなるにしたがって「5,000円程度」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、「2,000円程度」が『支払いが困難な額である』で多くなっています。

在宅サービス利用の有無別にみると、『利用している』では「2,000円程度」が多く、『利用していない』では「3,000円程度」が多くなっています。（P.58, P.155～P.160）

■保険料と介護サービスのあり方

保険料と介護サービスのあり方については、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」（44.2%）が最も多く、次いで、「介護サービスの水準を今より抑えて、保険料が低くなるほうがよい」（16.1%）、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」（9.0%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が3.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、『500万円未満』では、概ね年収が高くなるにしたがって「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、『1,000万円未満』では、概ね年収が高くなるにしたがって「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が多くなっています。

今後介護を受けたい場所別にみると、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が各項目で多くなっています。

施設サービスの満足度別にみると、『満足』、『やや満足』で「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、『無理なく支払える額である』、『なんとか支払える額である』と回答した方は「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が多い一方、『支払いが困難である』と回答した方は「介護サービスの水準を今より抑えて、保険料が低くなるほうがよい」が多くなっています。（P.59, P.161～P.168）

■市独自の介護サービスと保険料のあり方

市独自の介護サービスと保険料のあり方に関する考え方は、「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」（56.1%）が最も多く、一方、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させた方がよい」は10.5%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が7.1ポイント高くなっています。

年齢別では、概ね年齢が高くなるにしたがって「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させた方がよい」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させた方がよい」が多くなっています。

第2章 分析結果の概要（要介護者等調査）

本人の年間総収入別にみると、年収が『500万円未満』の中では、概ね年収が高くなるにしたがって「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、年収が『700万円未満』の中では、概ね年収が高くなるにしたがって「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

保険料段階別にみると、『第9段階』までは、すべての保険料段階で「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が多くなっています。

在宅サービス利用の有無別にみると、『利用している』で「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、概ねすべての負担感で「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が多くなっています。なお、『無理なく支払える額である』と回答した方では、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させた方がよい」が20%を超えています。(P.60, P.169~P.174)

5 在宅サービスの利用状況と満足度について

■現在利用している在宅サービスの種類【複数回答】

現在利用している在宅サービスの種類は、「通所介護（デイサービス）」（35.0%）が最も多く、次いで、「福祉用具貸与」（25.7%）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（20.2%）となっています。一方、「利用していない」は15.3%となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「通所介護（デイサービス）」が多く、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」は少なくなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』では「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が多く、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』、『上記以外で全員が65歳以上の世帯』では「通所介護（デイサービス）」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね介護度が上がるにしたがって「福祉用具貸与」、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」、「訪問入浴介護」、「訪問看護」が多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、年収『500万円未満』までの項目では、「通所介護（デイサービス）」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、概ね収入が高くなるにしたがって「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与」、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」が多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね各項目で「通所介護（デイサービス）」が多くなっています。

利用者負担額別にみると、概ね利用者負担額が高くなるにしたがって「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与」、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」が多くなっています。（P.61, P.175～P.183）

■現在利用している在宅サービスの利用頻度

現在利用している各在宅サービスの令和元年10月の1カ月間の利用頻度で最も多かったのは、『A.訪問介護（ホームヘルプサービス）』（34.6%）、『C.訪問看護』（39.8%）『D.訪問リハビリテーション』（44.0%）、『F.通所リハビリテーション（デイケア）』（32.2%）では「週1回程度」、『B.訪問入浴介護』（39.8%）、『E.通所介護（デイサービス）』（30.6%）では「週2回程度」、『G.夜間対応型訪問介護』では「週5回以上」（36.4%）となっています。

『H.定期巡回・随時対応型訪問看護』『I.小規模多機能型居宅介護』『J.看護小規模多機能型居宅介護』『K.訪問介護型サービス』『L.生活支援訪問介護型サービス』『M.訪問型短期集中予防サービス』『N.通所介護型サービス』『生活支援通所介護型サービス』『通所型短期集中予防サービス』の各在宅サービスの令和元年10月の1カ月間の利用の有無については、

すべての項目で「利用した」が多くなっています。

令和元年10月の1カ月間の『Q.短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）』の利用頻度で最も多かったのは、「月1～7日程度」（52.0%）となっています。また、『R.居宅療養管理指導』で最も多かったのは、「月1回程度」（46.7%）となっています。

（P.62～P.63）

■ケアマネジャー（居宅介護支援事業者・地域包括支援センター）の選択理由 【複数回答】

現在利用しているケアマネジャー（居宅介護支援事業者／地域包括支援センター）を選んだ理由は、「自分の地域を担当する地域包括支援センターだから」（55.2%）が最も多く、次いで、「自宅から近いから」（18.3%）、「職員の対応がよいから」（15.1%）となっています。また、「その他」の内容としては、「病院からの紹介」などが挙げられています。

世帯の状況別にみると、各項目で「自分の地域を担当する地域包括支援センターだから」が最も多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「自分の地域を担当する地域包括支援センターだから」が低くなっています。

介護者の要介護認定別にみると、『要介護（支援）認定は受けていない』、『要介護（支援）認定を受け、要支援・要介護と判定』で「自分の地域を担当する地域包括支援センターだから」が多くなっています。（P.64, P.189～P.191）

■ケアマネジャーや地域包括支援センターに対する満足度

ケアマネジャーや地域包括支援センターのサービスに対する満足度は、「満足」（50.4%）と「やや満足」（26.5%）を合わせた『満足』が76.9%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が0.7ポイント低くなっています。

世帯の状況別にみると、「満足」と「やや満足」は、概ねすべての項目で多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、「満足」と「やや満足」は、概ねすべての項目で多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって「満足」と「やや満足」が多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね保険料段階が上がるにつれ「満足」と「やや満足」が多くなっています。（P.65, P.192～P.196）

■ケアマネジャーや地域包括支援センターに対して不満な点【複数回答】

ケアマネジャーや地域包括支援センターに対して不満な点は、「ケアプランを作成する際、本人や家族の意向があまり反映されない」「介護保険以外の福祉サービスに関する知識が不足している」「日ごろ不安に思っていることなどについて、あまり相談にのってくれない」（それぞれ21.4%）が最も多く、次いで、「ケアプランを作成するための専門的な知識や経験が不足している」（20.0%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「質問をしても、回答や説明が十分でない」が22.0ポイント、「利用者宅を訪問したり、電話で状況を確認したりすることがほとんどない」が18.8ポイント低くなっています。（P.66）

■現在利用している在宅サービスの選択理由【複数回答】

現在利用している在宅サービスを選んだ理由は、「ケアマネジャー等（地域包括支援センター職員を含む）にすすめられたから」（50.0%）が最も多く、次いで、「自宅から近いから」（20.0%）、「職員の対応がよいから」（14.5%）となっています。また、「その他」の内容としては、「見学に行き決めた」などが挙げられています。

世帯の状況別にみると、すべての世帯で「ケアマネジャー等（地域包括支援センター職員を含む）にすすめられたから」が多くなっています。「自宅から近いから」は『上記以外で全員が65歳以上の世帯』で多くなっています。

要介護度別にみると、すべての項目で「ケアマネジャー等（地域包括支援センター職員を含む）にすすめられたから」が多くなっています。（P.67, P.197～P.198）

■在宅サービスの質や内容に対する満足度

現在利用している在宅サービスの質や内容に対する満足度は、「満足」（39.0%）と「やや満足」（25.6%）を合わせた『満足』が64.6%となっています。一方、「不満」（0.5%）と「やや不満」（3.4%）を合わせた『不満』は3.9%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「満足」が3.6ポイント低くなっています。

世帯の状況別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。

要介護度別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって「満足」と「やや満足」の合計が多くなっています。

保険料段階別では、『第8段階』までは、概ね各項目で「満足」「やや満足」が多くなっています。（P.68, P.199～P.203）

■在宅サービスの質や内容に対して不満な点【複数回答】

在宅サービスの質や内容に対して不満な点は、「担当者がよく変わる」（30.8%）が最も多く、次いで、「職員の介護技術や専門性が低い」（21.5%）、「サービス内容の事前説明が十分でない」（20.0%）となっています。また、「その他」の内容としては、「入所時契約書が法・条例改正に伴い、更新されていない」など多様な意見が挙げられています。

（P.69）

■在宅サービスの量に対する満足度

現在利用している在宅サービスの量に対する満足度は、「満足」（34.5%）と「やや満足」（22.5%）を合わせた『満足』が57.0%となっています。一方、「不満」（1.2%）と「やや不満」（3.0%）を合わせた『不満』は4.2%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「満足」が5.4ポイント低く、「無回答」が6.6ポイント高くなっています。

世帯の状況別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、「満足」、「やや満足」が各項目で多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。

保険料段階別にみると、「満足」、「やや満足」が各項目で多くなっています。

利用限度額に対する利用量別にみると、「満足」と「やや満足」が各項目で多くなっています。（P.70, P.204～P.209）

■在宅サービスの量に対して不満な点【複数回答】

在宅サービスの量に対して不満な点は、「利用したいサービスをすべて利用すると、利用限度額（1～3割負担で利用できる限度額）を超えるため、サービスを減らしている」（40.0%）が最も多く、次いで、「希望する曜日や時間帯にサービスが受けられない」（15.7%）、「利用したいサービスを提供する事業者数が少ないため、十分なサービスが受けられない」（14.3%）、「利用したいサービスをすべて利用しても、利用限度額の範囲内ではあるが、少しでも利用者負担を抑えるため、サービスを減らしている」（11.4%）となっています。また、「その他」の内容としては、「回数が少ない」などが挙げられています。（P.71）

6 在宅サービスの利用限度額について

■利用限度額に対する在宅サービスの利用量

利用限度額に対する在宅サービスの利用量は、「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」（37.5%）が最も多く、次いで、「ほぼ利用限度額いっぱいまでサービスを利用している」（22.1%）となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」が少なくなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」が少なくなっています。

要介護度別にみると、「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」が『要介護1』、『要介護2』で多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、『200～1,000万円未満』で年収が高くなるにしたがって「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」が多くなっています。

保険料段階別では、『第10段階』までは、『第5段階』、『第7段階』で「利用限度額いっぱいまでサービスを利用していない」が他の項目と比べ多くなっています。

（P.72, P.210～P.217）

■利用限度額まで在宅サービスを利用していない理由【複数回答】

利用限度額まで在宅サービスを利用していない理由は、「現在のサービス量で十分満足しているから」（54.2%）が最も多く、次いで、「もう少しサービスを利用したいが、費用負担が可能な範囲で我慢しているから」（14.0%）、「利用することでかえって本人や家族に負担がかかるから」（10.8%）となっています。

要介護度別にみると、各項目で「現在のサービス量で十分満足しているから」が多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、各項目で「現在のサービス量で満足しているから」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、『300万円～500万円未満』で「現在のサービス量で十分満足しているから」が63.4%と他の項目より多くなっています。

（P.73, P.218～P.220）

7 在宅サービスの今後の利用意向について

■今後利用したい、増やしたいと思う在宅サービス【複数回答】

今後利用したい、あるいは増やしたいと思う在宅サービスは、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」（18.4%）が最も多く、次いで、「通所介護（デイサービス）」（17.4%）、「福祉用具貸与」（14.6%）、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（12.7%）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（12.1%）、「福祉用具購入費の支給」（10.1%）となっています。なお、「特にない」は16.0%となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」、「通所介護（デイサービス）」が多くなっている一方、「訪問リハビリテーション」は少なくなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」、「訪問入浴介護」、「訪問看護」、が多くなっています。

本人の年間総収入別にみると、年収『500万円未満』までは、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」、「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与」が多くなっています。

世帯の年間総収入別にみると、『700万円未満』までは、概ね収入が高くなるにしたがって「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」が多くなっています。

保険料段階別にみると、『第1段階』、『第3段階』では「通所介護（デイサービス）」が多くなっており、他の各項目では「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」が、介護者の『いる』世帯で多くなっている一方、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が、介護者の『いない』世帯で多くなっています。（P.74, P.221～P.228）

8 在宅サービスを利用していない方について

■在宅サービスを利用していない理由【複数回答】

在宅サービスを利用していない理由は、「自分で生活できるから」（44.9%）が最も多く、次いで、「家族・ボランティア等が介護してくれるから（介護保険外のサービスで十分間に合っているから）」（19.3%）、「要介護認定を受けてから間もないから」（11.1%）となっています。また、「その他」の内容としては、「費用がかかるから」、「他人を家に入れたくない」などが挙げられています。

年齢別にみると、『85～89歳』では、「自分で生活できるから」が多くなっています。

本人の年間総収入別では、概ね各項目で「自分で生活できるから」が多くなっています。（P.75, P.229～P.230）

■今後の在宅サービスの利用予定

今後の在宅サービスの利用予定は、「将来、要介護度が重くなったり、家族などの介護が困難になったら利用を考えたい」（42.0%）が最も多くなっています。

要介護度別では、『要支援1』で「将来、要介護度が重くなったり、家族などの介護が困難になったら利用を考えたい」が多くなっています。（P.76, P.231）

■今後利用したいと思う在宅サービス【複数回答】

今後利用したいと思う在宅サービスは、「通所リハビリテーション（デイケア）」（27.6%）が最も多く、次いで、「通所介護（デイサービス）」（24.1%）、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（15.5%）となっています。

9 介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について

■高齢者福祉サービスの利用状況【複数回答】

現在利用している高齢者福祉サービスは、回答者の半数以上である52.2%が「利用しているサービスはない」と回答しています。利用しているサービスの中では「弁当を自宅に配達するサービス」（7.2%）が最も多く、次いで、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（6.0%）となっています。

年齢別にみると、大きな差はみられませんでした。

世帯の状況別では、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で「弁当を自宅に配達するサービス」、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」が多くなっています。

要介護度別では、介護度が高くなるにしたがって、「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」、「紙おむつなどの介護用品を提供するサービス」が多くなっている一方、「弁当を自宅に配達するサービス」、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」が少なくなっています。

介護者の有無別にみると、介護者の『いる』世帯で「利用しているサービスはない」が多くなっている一方、介護者が『いない』世帯で「弁当を自宅に配達するサービス」、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」が多くなっています。

（P.78, P.232～P.236）

■高齢者福祉サービスの今後の利用意向【複数回答】

今後利用したい高齢者福祉サービスは、「利用したいサービスはない」と回答した方が最も多く（19.2%）、次いで「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（18.8%）、「弁当を自宅に配達するサービス」（16.7%）、「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」（16.2%）となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』で「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」、「弁当を自宅に配達するサービス」が多くなっています。

要介護度別にみると、要介護2までは「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」、「弁当を自宅に配達するサービス」「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」が多く、要介護3より高くなると「紙おむつなどの介護用品を提供するサービス」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、介護者の『いない』世帯で「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」、「弁当を自宅に配達するサービス」「お店までの送迎をしてくれるサービス」「本人の代わりに買い物をしてくれるサービス」、「自宅または近所に移動販売車が来るサービス」が多くなっています。（P.79, P.237～P.241）

■地域、NPOやボランティアによるサービスの利用状況【複数回答】

現在利用している地域、NPOやボランティアによるサービスは、回答者の63.8%「が利用していない」と回答し、前回調査（平成28年度）より、6.1ポイント高くなっています。利用しているサービスの中では「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」（6.5%）が最も多く、次いで、「食事の配達」（2.7%）、「軽運動や食事会などのサロン」（2.3%）となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」が少なくなっています。また、『要介護1』で「利用していない」が他の要介護度に比べ多くなっています。

在宅サービス利用の有無別では、在宅サービスを『利用していない』で「利用していない」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、介護者の『いる』世帯で「利用していない」が多く、介護者の『いない』世帯で「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」が多く、なっています。（P.80, P.242~P.246）

■地域、NPOやボランティアによるサービスを利用していない理由【複数回答】

地域、NPOやボランティアによるサービスを利用していない理由は、「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」（41.1%）が最も多くなっています。また、「その他」の内容としては、「今のところ必要としていない」などが挙げられています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、各項目で「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」が多くなっています。

要介護度別にみると、各項目で「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」が多くなっています。

在宅サービス利用の有無別にみると、在宅サービスを『利用している』で「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」が多くなっています。

（P.81, P.247~P.250）

■地域、NPOやボランティアによる今後利用したい（現在利用していて、今後も引き続き利用したい場合を含む）と思うサービス【複数回答】

今後利用したいと思う地域、NPOやボランティアによるサービスは、「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」（49.2%）が最も多く、次いで、「通院や買い物などの福祉車両による送迎」（29.8%）、「軽運動や食事会などのサロン」（21.7%）となっています。（P.82）

■地域、NPOやボランティアによるサービスを今後利用したくない理由【複数回答】

地域、NPOやボランティアによるサービスを今後利用したくない理由は、「サービス内容に不安がある」「その他」（ともに25.0%）が最も多くなっています。なお、「その他」の内容としては、「現在は必要ない」などが挙げられています。（P.82）

10 安否確認について

■安否確認の意向

安否確認の意向は、「今は必要ないが将来してもらいたい」（39.8%）と「安否確認はしてもらいたい」（16.5%）を合わせた『安否確認を希望する』が56.3%となっており、前回調査（平成28年度）とほぼ同様の結果となっています。

性別では、『男性』で「今は必要ないが将来してもらいたい」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で「安否確認はしてもらいたい」が多く、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』で「今は必要ないが将来してもらいたい」が多くなっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにしたがって「今は必要ないが将来してもらいたい」が少なくなっています。

現在の生活場所別にみると、『自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）』、『賃貸住宅（市営住宅等を含む）』で「今は必要ないが将来してもらいたい」が多くなっています。

在宅サービス利用の有無別では、在宅サービスを『利用している』で「安否確認はしてもらいたい」が多くなっています。

介護者の居住地別にみると、『本人と同居している』で「今は必要ないが将来してもらいたい」が多い一方で、『本人とは別居し、市内には住んでいるが離れている（歩いて10分以上）』で「安否確認はしてもらいたい」が多くなっています。

（P.83, P.251～P.256）

■安否確認の希望回数

安否確認の希望回数は、「週に数回から月に数回程度」（37.8%）が最も多く、次いで、「月に1回から年に数回程度」（29.8%）、「年に1～2回程度」（7.2%）となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で「週に数回から月に数回程度」が多くなっており、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』で「月に1回から年に数回程度」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「週に数回から月に数回程度」が多くなっています。

現在の生活場所別では、『自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）』、『賃貸住宅（市営住宅等を含む）』で大きな差は見られませんでした。

介護者の居住地別にみると、『本人とは別居し、市内には住んでいるが離れている（歩いて10分以上）』で「週に数回から月に数回程度」が多くなっています。

（P.83, P.257～P.260）

■安否確認を必要とする状況【複数回答】

安否確認を必要とする状況は、「地震や風水害などの災害がおこったとき」（68.2%）が最も多く、次いで、「熱中症や新型インフルエンザなど病気が流行したとき」（39.1%）、「不審者があらわれるなど不安なことがおきたとき」（34.2%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「熱中症や新型インフルエンザなど病気が流行したとき」が5.7ポイント高くなり、「地震や風水害などの災害がおこったとき」が4.1ポイント低くなっています。

現在の生活場所別では、各項目で「地震や風水害などの災害がおこったとき」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、介護者が『いない』世帯で「熱中症や新型インフルエンザなど病気が流行したとき」が多くなっています。

介護者の居住地別にみると、『本人と同居している』、『本人とは別居し、市内には住んでいるが離れている（歩いて10分以上）』で「地震や風水害などの災害がおこったとき」、「不審者があらわれるなど不安なことがおきたとき」が多くなっています。

（P.84, P.261～P.264）

■安否確認をしてもらいたい相手方【複数回答】

安否確認をしてもらいたい相手方は、「家族や親せき」（71.3%）が最も多く、次いで、「ケアマネジャー」（37.6%）、「地域包括支援センター職員」（28.5%）、「ご近所の方」（27.0%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「ご近所の方」が4.3ポイント、「町内会の方」が3.1ポイント低くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「家族や親せき」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね要介護度が高くなるにしたがって「訪問看護師」が多くなっている一方、「知人や友人」が少なくなっています。

現在の生活場所別にみると、『自宅（親せきなどの家への同居を含む）』は「家族や親せき」が多くなっています。

在宅サービス利用の有無別では、『在宅サービスを利用している』では「ケアマネジャー」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、介護者の『いる』世帯で「家族や親せき」が多く、介護者の『いない』世帯では「地域包括支援センター職員」、「民生委員」が多くなっています。

介護者の居住地別にみると、『本人と同居している』、『本人とは別居し、市内には住んでいるが離れている（歩いて10分以上）』で「家族や親せき」、「ケアマネジャー」が多くなっています。（P.85, P.265～P.268）

11 今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について

■今後介護を受けたい場所

今後介護を受けたい場所は、「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」（40.0%）が最も多く、次いで、「特別養護老人ホーム（長期入所）」（8.3%）、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス等）」（7.1%）となっています。

年齢別にみると、各項目で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、各項目で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が、多くなっています。

要介護度別にみると、概ね『要介護3～4』で「特別養護老人ホーム」が多くなっています。

介護者の有無別にみると、介護者が『いる』で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が多くなっています。

（P.86, P.269～P.274）

■施設への入所申し込み状況【複数回答】

施設への入所申し込み状況は、「特別養護老人ホーム」（1.9%）が最も多くなっています。一方、「いずれの施設にも申し込んでいない」は51.4%となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「申し込みを検討している」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『その他の世帯』で「いずれの施設にも申し込んでいない」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね『要介護3～5』で「特別養護老人ホーム」が多くなっています。

特別養護老人ホームに入所の申し込みをしている方の申込施設数は、「1カ所」（59.1%）が最も多く、次いで、「2カ所」（20.5%）となっています。

老人保健施設に入所の申し込みをしている方の申込施設数は、「1カ所」（90.5%）が最も多く、次いで、「2カ所」（9.5%）となっています。

高齢者向け住宅に入所の申し込みをしている方の申込施設数は、「1カ所」（78.3%）が最も多く、次いで、「2カ所」（13.0%）となっています。

認知症高齢者グループホームに入所の申し込みをしている方の申込施設数は、「1カ所」（36.4%）が最も多く、次いで、「2カ所」（13.6%）、「3カ所」（9.1%）となっています。（P.87～P.89, P.275～P.277）

12 施設入所者の状況について

■施設入所前の生活場所

現在の施設・病院等に入所・入院する前の生活場所は、「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」（47.6%）が最も多く、次いで、「病院等」（13.7%）、「老人保健施設」（12.1%）となっています。

年齢別にみると、『90歳以上』で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホーム入所者等を含む）』で「自宅（親せきなどの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」が多くなっています。（P.90, P.278～P.280）

■施設への入所理由【複数回答】

現在の施設・病院等に入所・入院した理由は、「介護してくれる家族の負担が限界に近かったから」（36.5%）が最も多く、次いで、「介護者がいないため、在宅で生活することが難しかったから」（35.2%）、「認知症などのため、施設でより手厚い介護が必要だったから」（33.3%）となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホーム等入所者を含む）』で「介護者がいないため、在宅で生活することが難しかったから」、「介護してくれる家族の負担が限界に近かったから」、「認知症などのため、施設でより手厚い介護が必要だったから」、が多くなっています。

要介護度別にみると、『介護度5』では「認知症などのため、施設でより手厚い介護が必要だったから」が多くなっています。（P.91, P.281～P.282）

■施設サービスの満足度

現在受けている施設サービスの満足度は、「満足」（47.6%）と「やや満足」（30.5%）を合わせた『満足』が78.1%となっています。一方、「不満」（1.6%）と「やや不満」（4.4%）は合わせた『不満』は6.0%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「満足」が5.0ポイント高くなっています。

本人の年間総収入別にみると、『100万円～200万円未満』では「満足」、「やや満足」を合わせると76.2%となっています。（P.92, P.283～P.284）

■施設サービスの不満な点【複数回答】

施設サービスの不満な点は、「本人の身体状況に合わせた対応をしてくれない」（47.4%）が最も多く、次いで、「職員の介護技術や専門性が低い」（31.6%）、「本人や家族の希望を聞いてくれない」（26.3%）となっています。また、「その他」の内容としては、「利用料が高い」などが挙げられています。（P.93）

■今後介護を受けたい場所

今後介護を受けたい場所は、「現在入所している施設」(84.8%)が最も多くなっており、次いで、「自宅」(6.3%)、「現在入所している施設以外の施設」(4.1%)となっています。

年齢別にみると、各項目で「現在入所している施設」が多くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホーム等入所者を含む）』で「現在入所している施設」が多くなっています。

要介護度別にみると、『要介護4～5』では、「現在入所している施設」が多くなっています。(P.94, P.285～P.287)

■自宅や他施設での介護を希望する理由【複数回答】

自宅や他施設での介護を希望する理由は、「住み慣れた場所で生活したいから」(54.5%)が最も多く、次いで、「施設での生活があわないと思うから」「自宅の方が施設に比べて経済的負担が少ないと思うから」(ともに21.2%)、「施設で他人との共同生活をしたくないから」(18.2%)、「家族に介護してもらいたいから」(15.2%)となっています。

(P.95)

■引き続き現在の施設に入所を希望する理由【複数回答】

引き続き現在の施設に入所を希望する理由は、「施設にいた方が何かあった時に十分なケアを受けられると思うから」(67.8%)が最も多く、次いで、「常に介護が必要だから」(58.1%)、「現在入所している施設の介護に満足しているから」(52.8%)となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホーム等入所者を含む）』で「施設にいた方が何かあった時に十分なケアを受けられると思うから」が多くなっています。

(P.96, P.288)

13 介護サービスに不満があった場合の対応について

■介護サービスに不満があった場合の相談先【複数回答】

介護サービスに不満があった場合の相談先は、「ケアマネジャー」（44.7%）が最も多く、次いで、「事業者に直接」（17.5%）、「地域包括支援センター」（14.8%）となっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホーム等入所者を含む）』で「事業者に直接」が他の項目より多くなっており、『夫婦のみ（ともに65歳以上）』では「ケアマネジャー」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるにしたがって「事業者に直接」が多くなっている一方、「地域包括支援センター」が少なくなっています。

介護者の有無別にみると、介護者の『いる』世帯では、「ケアマネジャー」が多くなっており、介護者の『いない』世帯では、「地域包括支援センター」が多くなっています。

（P.97, P.289～P.291）

14 介護サービスの利用者負担について

■1か月の平均的な利用者負担額

1か月の平均的な利用者負担額は、「50,000円以上」（17.0%）が最も多く、次いで、「10,000円～15,000円未満」（8.4%）、「3,000円未満」（8.0%）、「3,000円～5,000円未満」（7.7%）となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「50,000円以上」が多くなっています。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるにしたがって「50,000円以上」が多くなっている一方、「3,000円未満」、「3,000円～5,000円未満」が少なくなっています。

本人の年間総収入別にみると、年収が『500万円未満』では、大きな差は見られませんでした。

世帯の年間総収入別にみると、年収が『700万円未満』では、大きな差は見られませんでした。

保険料段階別では、『第9段階』までは、大きな差は見られませんでした。

（P.98, P.292～P.296）

■利用者負担の負担感

利用者負担の負担感は、「なんとか支払える額である」（42.7%）と「無理なく支払える額である」（20.6%）を合わせた『支払える』は63.3%となっています。一方、「支払いが困難な額である」は6.3%となっており、前回調査（平成28年度）とほぼ同様の傾向となっています。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるにしたがって「支払いが困難な額である」が多くなっている一方、「無理なく支払える額である」が少なくなっています。

本人の年間総収入別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって「支払いが困難な額である」が少なくなっています。

世帯の年間総収入別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって「支払いが困難な額である」が少なくなっています。

保険料段階別にみると、『第7段階』までは、概ね保険料段階が高くなるにしたがって「無理なく支払える額である」が多くなっています。（P.99, P.297～P.301）

■利用者負担が3割になった以降における利用量の変化とその理由

利用者負担が3割になった以降における利用量の変化は、「変わらない」（75.7%）が最も多く、次いで、「増えた」（16.5%）、「減った」（7.8%）となっています。

年齢別にみると、70～74歳で、「変わらない」が80%を超えています。

要介護度別にみると、『要支援2』、『要介護3』では「増えた」が20%を超えています。

利用者負担が3割になった以降に利用量が減った理由は、「利用者負担が増えたため」（36.0%）が最も多く、次いで、「要介護度が下がるなどご本人の身体状況がよくなったため」（16.0%）、「介護保険以外の高齢者向けサービスを増やしたため」（12.0%）となっています。（P.100, P.302～P.303）

15 仙台市への意見・要望について（自由記述）

順位	項目	意見数	比率 (%)
1	行政への提言など	85	16.7
2	経済的な負担について	61	12.0
3	在宅サービスについて	59	11.6
4	施設サービスについて	54	10.6
5	日常生活について	46	9.0
6	介護保険制度について	37	7.3
7	情報の提供	36	7.1
8	アンケートの感想	31	6.1
9	介護者の負担について	27	5.3
10	感謝	26	5.1
11	要介護認定について	24	4.7
12	施設で働く人の待遇について	6	1.2
13	手続き全般について	6	1.2
14	その他	12	2.4
合計		510	100.0

16 介護者について

■介護者の有無

介護者は、「いる」と回答した人が71.7%である一方、「いない」と回答した人は15.0%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「いる」が11.1ポイント高くなっています。

世帯の状況別にみると、『ひとり暮らし（特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所している場合を含む）』で、介護者が「いる」世帯が少なくなっています。

要介護度別にみると、すべての要介護度で、介護者が「いる」世帯が多くなっています。また、概ね介護度が高くなるにしたがって、介護者が「いない」世帯は少なくなっています。（P.102, P.311～P.312）

■介護者の性別

介護者の性別は、「男性」が29.6%、「女性」が59.3%となっています。

本人（要介護者）の性別では、各項目で「女性」が多くなっています

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『配偶者（夫または妻）』では「男性」、『子の配偶者』では「女性」が多くなっています。

介護者の年代別にみると、『40代以上』は概ね年齢が高くなるにしたがって「男性」が多くなっています。（P.102, P.313～P.314）

■介護者の続柄

介護者の続柄（ご本人から見た場合）は、「子」（39.2%）が最も多く、次いで、「配偶者（夫または妻）」（33.4%）となっています。なお、「子」と「子の配偶者」（9.6%）を合わせると48.8%となっています。また、前回調査（平成28年度）より、「子」が5.0ポイント低くなっています。

本人（要介護者）の性別では、『男性』で「配偶者（夫または妻）」が多く、『女性』で「子」が多くなっています。

本人（要介護者）の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「子」が多くなり、「配偶者（夫または妻）」が少なくなっています。（P.103, P.315）

■介護者の年齢

介護者の年齢は、「60代」（26.8%）が最も多く、次いで、「70代」（20.1%）、「50代」（18.7%）となっています。なお、60代以上は63.5%となっています。

本人（要介護者）の年齢別にみると、本人が『70～79歳』では介護者は「70代」が多く、本人が『80～89歳』では介護者は「50代」、「80歳以上」が多く、本人が『90歳以上』では介護者は「60代」が多くなっています。（P.103, P.316）

■介護者の健康状態

介護者の健康状態は、「持病はあるが、どちらかといえば健康である」（37.2%）が最も多く、次いで、「健康である」（31.8%）となっており、69.0%が健康に不安のない状況です。一方、「病気がち、通院している」は16.3%、「健康状態は常に悪い」は3.3%となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「健康である」が2.0ポイント、「持病はあるが、どちらかといえば健康である」が1.2ポイント低くなっています。

年齢別では、概ね年齢が高くなるにしたがって、「健康である」が少なくなっています。（P.104, P.317）

■介護者の要介護等認定の状況

介護者の要介護等認定の状況は、「要介護（支援）認定は受けていない」（65.3%）が最も多くなっています。一方、「要介護（支援）認定を受け、要支援・要介護と判定された」は17.6%となっています。

年齢別にみると、『60代』で「要介護（支援）認定は受けていない」が80%を超えています。（P.104, P.318）

■介護者の他の介護の有無

介護者の他の介護の有無は、「いない」が55.3%、「いる」が24.8%となっています。

介護者が本人以外にも介護をしている方の続柄は、「子または子の配偶者」（36.3%）が最も多く、次いで、「配偶者（夫または妻）」（32.6%）、「父または母」（18.5%）となっています。（P.105）

■週あたりの介護日数

週あたりの介護日数は、「ほぼ毎日」（57.7%）が最も多くなっています。

要介護度別にみると、『要介護5』で「ほぼ毎日」が50%を超えています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子の配偶者』で「ほぼ毎日」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子または子の配偶者』で「ほぼ毎日」が多くなっています。（P.106, P.319～P.321）

■1日平均の介護時間

1日平均の介護時間は、「1～2時間程度」（26.9%）が最も多く、次いで、「ほぼ1日中」（23.5%）、「3～4時間程度」（18.3%）、「5～8時間程度」（10.8%）となっています。

本人（要介護者）の要介護度別にみると、『要介護5』で「ほぼ1日中」が50%を超えています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『配偶者（夫または妻）』では「ほぼ1日中」が多く、『子の配偶者』では「1～2時間程度」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』では「1～2時間程度」が多く、『子または子の配偶者』では「ほぼ1日中」が他の項目と比べて多くなっています。（P.106, P.322～P.324）

■介護者の住まい

介護者の住まいは、「本人と同居している」（65.2%）が最も多くなっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「本人と同居している」が5.3ポイント低くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各項目で「本人と同居している」が多くなっています。

年齢別にみると、各項目で「本人と同居している」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子または子の配偶者』で「本人と同居している」が多くなっています。（P.107, P.325～P.327）

■介護している内容【複数回答】

現在、介護者の方が行っている介護等は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（62.6%）が最も多く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」（58.8%）、「食事の準備（調理等）」（58.5%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（56.9%）となっています。

要介護度別にみると、「服薬」、「衣服の着脱」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」は、概ね介護度が高くなるにしたがって多くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各項目で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が多くなっています。（P.108, P.328～P.329）

■介護の期間

介護の期間は「5年～10年未満」（19.8%）が最も多く、次いで、「3年～5年未満」（17.8%）、「2年～3年未満」（12.0%）となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『子』、『子の配偶者』で、「5年～10年未満」が多くなっています。（P.109, P.330）

■介護者以外に介護を手伝ってくれる人数

介護者以外に介護を手伝ってくれる人数は、「いない（0人）」（35.1%）が最も多く、次いで、「1人」（30.4%）、「2人」（15.8%）となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『配偶者（夫または妻）』では「いない（0人）」が多く、『子の配偶者』では「1人」が多くなっています。

介護者の他の介護の有無別にみると、『いない』では「いない（0人）」、『いる』では「1人」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子または子の配偶者』で「1人」が多くなっています。（P.109, P.331～P.332）

■介護サービスを利用してよくなった点【複数回答】

介護サービスを利用して、利用する前に比べてよくなった点は、「介護者自身が精神的に楽になった」（34.2%）が最も多く、次いで、「介護者自身の時間に余裕ができた」（32.6%）、「介護者自身が体力的に楽になった」（25.0%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「介護者自身が精神的に楽になった」が4.7ポイント低くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、概ね各項目で「介護者自身が精神的に楽になった」、「介護者自身の時間に余裕ができた」、「介護者自身が体力的に楽になった」が多くなっています。

介護者の他の介護の有無別では、『いる』で「介護者自身が精神的に楽になった」、「介護者自身の時間に余裕ができた」、「介護者自身が体力的に楽になった」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』で「介護者が精神的に楽になった」が多くなっています。（P.110, P.333～P.334）

■介護するうえで困った点・不満な点【複数回答】

介護をするうえで困ったり不満に思ったりしていることは、「介護がいつまで続くのか不安になる」（38.8%）が最も多く、次いで、「自分の時間がとれない」（29.4%）、「自分が本人にやさしく接することができない時がある」（29.0%）となっています。なお、前回調査（平成28年度）より、「介護がいつまで続くのか不安になる」が4.4ポイント、「自分が本人にやさしく接することができない時がある」が2.8ポイント、「他の家族や親せきなどの協力が得られない」が2.2ポイント低くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「介護がいつまで続くのか不安になる」、「自分の時間がとれない」、「自分が本人にやさしく接することができない時がある」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』で「介護がいつまで続くのか不安になる」が50%を超えています。また『子または子の配偶者』では「介護がいつまで続くのか不安になる」、「自分の時間がとれない」が多くなっています。（P.111, P.335～P.336）

■介護を継続するにあたっての不安【複数回答】

現在の生活を継続するにあたって、介護者の方が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」（20.1%）が最も多く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」（14.9%）、「夜間の排泄」（11.3%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（9.5%）、「入浴・浴身」「食事の準備（調理等）」（ともに9.3%）となっています。

世帯の状況別にみると、概ね各項目で「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」が多くなっています。

要介護度別にみると、各項目で「認知症状への対応」が多くなっており、概ね要介護度が高くなるにしたがって「夜間の排泄」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子または子の配偶者』で「認知症状への対応」が多くなっています。（P.112, P.337～P.338）

■介護についての相談者【複数回答】

介護についての相談者は、「ケアマネジャー」（45.3%）が最も多く、次いで、「家族・親せき」（40.6%）、「医師」（14.6%）となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「ケアマネジャー」、「家族・親せき」が多くなっています。（P.113, P.339）

■介護者の現在の勤務形態

介護者の現在の勤務形態は、「働いていない」（49.3%）が最も多く、次いで、「フルタイムで働いている」（17.6%）、「パートタイムで働いている」（13.9%）となっています。

介護者の性別では、男女ともに「働いていない」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「働いていない」が多くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『配偶者（夫または妻）』で「働いていない」が多くなっています。

他の介護対象者との続柄別にみると、『配偶者（夫または妻）』、『子または子の配偶者』で「働いていない」が多くなっています。（P.114, P.340～P.342）

■介護するための働き方の調整【複数回答】

介護するために働き方を調整しているかは、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら働いている」（34.7%）が最も多く、次いで、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら働いている」（18.2%）となっています。一方、「特に行っていない」は31.1%となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている」、「特に行っていない」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、概ね各年代で「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている」、「特に行っていない」が多くなっています。

介護者の他の介護の有無別にみると、『いる』で「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」が多くなっています。（P.115, P.343～P.345）

■仕事と介護の両立に向けた勤務先の支援のあり方【複数回答】

仕事と介護の両立に向けた勤務先の効果的な支援のあり方は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（29.9%）が最も多く、次いで、「制度を利用しやすい職場づくり」（29.8%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（26.7%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（20.0%）となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、『子』で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、概ね各年代で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」が多くなっています。（P.116, P.346～P.347）

■今後の仕事と介護の両立に対する意向

今後の仕事と介護の両立に対する意向は、「問題はあるが、何とか続けていける」(64.3%)が最も多く、次いで、「問題なく、続けていける」(16.9%)、「続けていくのは、やや難しい」(11.3%)となっています。

介護者の性別では、男女ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、各項目で「問題はあるが、何とか続けていける」が多くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「問題はあるが、何とか続けていける」が多くなっています。（P.117, P.348～P.349）

■過去1年間の介護による家族や親戚の離職の有無【複数回答】

過去1年間の介護による家族や親戚の離職の有無は、「介護のために仕事を辞めた家族・親せきはいない」(50.7%)が最も多くなっています。一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職を除く）」は9.6%となっています。

介護者の性別では、男女ともに「介護のために仕事を辞めた家族・親せきはいない（就業していない方などが介護されている場合を含む）」が多くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「介護のために仕事を辞めた家族・親せきはいない（就業していない方などが介護されている場合を含む）」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、概ね各年代で「介護のために仕事を辞めた家族・親せきはいない（就業していない方などが介護されている場合を含む）」が多くなっています。

（P.118, P.350～P.351）

■介護のために家族や親戚が離職や転職した理由【複数回答】

介護のために家族や親戚が離職や転職した理由は、「本人を介護する家族や親せきがない」(37.2%)が最も多く、次いで、「介護サービスだけでは足りない」(14.3%)、「本人が家族や親せきに介護してほしいと希望したため」(11.0%)となっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、各続柄で「本人を介護する家族や親せきがない」が多くなっています。（P.119, P.352）

■介護のために家族や親戚が離職していない理由【複数回答】

介護のために家族や親戚が離職していない理由は、「就業していない方などが介護されている」(33.5%)が最も多く、次いで、「介護サービスの利用でおぎなっている」(29.6%)、「本人の身体状況がよいため」(27.8%)となっています。また、「その他」の内容としては、「仕事を辞めた後に、介護が必要な状況となった」、「仕事と介護が両立出来ている」などが挙げられています。

介護者の性別では、『女性』では「就業していない方などが介護されている」が多くなっています。

介護者の続柄（ご本人から見た場合）別にみると、概ね各続柄で「就業していない方などが介護されている」、「介護サービスの利用でおぎなっている」が多くなっています。

介護者の年齢別にみると、『50代』では「本人の身体状況がよいため」が多く、『60代～70代』では「就業していない方などが介護されている」が多くなっています。

（P.120, P.353～P.354）

